

2009国内外トリプル受賞蔵

2009年モンドセレクション金賞受賞酒

720ml 800円・1800ml 1690円税込

全達藤酒造場

長野県須賀赤木町20
TEL.026-345-0117 FAX.026-345-1477
http://www.keiryu.jp E-mail info@keiryu.jp

平成23年11月24日

フォーエパーヤング。

仕事帰りかまに立ち寄るカウンターだけの小さな焼き鳥屋がある。先日新年の挨拶かたがた、ひさびさに顔を出した時の事だった。いつも気難しい顔で焼き鳥を焼いている藤父さんが、まだ誰もいない店内で、カウンター越しに小振りのギターを弾いていた。「若い頃にもっとかじったんですよ」と、いつもの無愛想な表情とはうってかわり、少しはにかんだ笑顔でグラスリースリーブを巻く。若い頃、髪を伸ばしギターを練習したものだけれど、結局身に付かず。挫折してしまっただけで、青春時代を思い出さずかたとなつた。納戸の奥の方にしまっておいた波みれのギターケースを取り出し、閉れてしまっている弦を張り替えてみる週末の午後。ずつとケースの中にしまわれていたので、錆びかかっている状態であったフォーエパーヤングの響きが、早々に挫折したときより、待っていてくれたかのように、今日の自分を、待っていてくれたかのように、夕夕気味ずかし気味になった。懐かしい記憶を辿りながらコードを押さえ、気分は「風に吹かれて」のつもりであるのだが、晩酌の準備をする女房のクスクス笑いが風裏に引き戻してくれた。疲れた左手の指先から、弾き出した北信濃の銘酒「漢流蔵囲い」の温もりが伝わる。心地よい休日の音。若い酒を飲み交わしながら女房と懐かしい昭和の話を語りあがすむ。また、ギターを練習してみようかなと決意する。いつまでも若い心に乾杯。

※お酒は二十歳になってから。

2009国内外トリプル受賞蔵

2009年モンドセレクション金賞受賞酒

720ml 800円・1800ml 1690円税込

全達藤酒造場

長野県須賀赤木町20
TEL.026-345-0117 FAX.026-345-1477
http://www.keiryu.jp E-mail info@keiryu.jp

平成23年11月28日

トラディショナル。

人生で最初に「オシャレ」を意識したのが、蘭館のニキギが華やかだった中学生の頃だったか、五所に住んでいたお兄さんが着こなしていた胸にエンブレムのついたキャメルカラーのブレザーを見た事がきっかけであった。当時はトラッドなスタイルが流行っていて、なげなしの小遣いを貯めて少しずつ買ひそろえていたものである。トラッドにはある程度のルールがあり、例えば色の組み合わせだったり、ズボンの裾丈の長さだったり、それのひとつひとつを勉強し、身につけていく事、少しずつではあるが、なんとなく「大人の階段」を昇っているのかなという気がしていた。単に有名なブランド品をかっこよく着こなすというのではなく、スタイルは似せても、着ている人それぞれのこだわりを主眼に感じた。着くずして表現するのではなく、キッチリと物にして着こなす事の勇らしさ、そんなかけがえのない魅力に惹かれたのである。ごく稀に会社の若者から「おしゃれですよ」といって声をかけられると、聞かぬ振りながらも、なんとなく、無言で、顔に目線のレンジマンタル柄のタイを纏め、オックスフォードのボタンダウンシャツの第一ボタンをはずし、今日の嬉しい出来事を女房に話しながら晩酌の酒を一口。懐かしにはいつも北信濃の銘酒「漢流蔵囲い」の香り、決して時流に流されない、男のこだわりについて考える夜である。

※お酒は二十歳になってから。

2009国内外トリプル受賞蔵

2009年モンドセレクション金賞受賞酒

720ml 800円・1800ml 1690円税込

全達藤酒造場

長野県須賀赤木町20
TEL.026-345-0117 FAX.026-345-1477
http://www.keiryu.jp E-mail info@keiryu.jp

平成23年11月29日

こころを込めて。

地区の育成会役員という肩書きをいただいている私は、先日地元の小学校の卒業式に卒業生ののりとして招待を受けた。成人となった我が子の成長の過程で、幾度となく入学式や卒業式に出会ったものであるが、卒業として招待されたのは初めての事である。おごそかな雰囲気の中、卒業生への卒業証書の授与が行われる。幼日までランドセルを背負っていた卒業生の子どもの姿も、この日は新入学生先の中学校の制服を着用して出席している。緊張した表情に、少し大きめのサイズの学生服が微笑ましくもある。この日理上で授与された多くの大人たちが、待たされた顔にはまった原稿を読む副読本の表情。果たして、この大人たちのメッセージは子どもたちの胸にどのくらい響くのであろうかと思ひながら式典は進行していく。そんな中、卒業生代表の登壇に胸を打たれた。原稿を見る事なく、在校生や先生の顔をみながら挨拶をしたのである。優しいメッセージであったが、実に愛と心のこもった答辞だ。礼儀や形式にとらわれ過ぎず、どこかから響ってきた挨拶文をそのまま読み上げただけの大人たちは、卒業式終了後の卒業生との別れで別れ笑いを浮かべている。春の佳き日の宴に、凍した北信濃の銘酒「漢流蔵囲い」が心を温める夜。それぞれの卒業式の思い出を語り合う時、あの頃への帰郷が恰好の肴となる。

※お酒は二十歳になってから。

2009国内外トリプル受賞蔵

2009年モンドセレクション金賞受賞酒

720ml 800円・1800ml 1690円税込

全達藤酒造場

長野県須賀赤木町20
TEL.026-345-0117 FAX.026-345-1477
http://www.keiryu.jp E-mail info@keiryu.jp

平成23年11月25日

武士道。

長い冬とも思える寒い春がようやく終わりを告げ、初夏らしい気持ちのいい天気が続く。そんな五月晴れの晩まにとうとう各地で大小のスポーツ大会が開催されている。野球やサッカー、ゴルフにテニス、プロの試合からインターハイの予選、さらには地元育成会主催のちびっこ大会まで、実に様々である。先日知人の息子が出場する、近所の体育館で行われた剣道の大会の必勝にかけた。高校3年生の選手にとっては、高校時代最後の大会、負ければ、その日ですべて終了してしまうから、地区予選とはいえ、場内の熱気が濃い。審判の上げる旗の行方に、選手も応援している後援者も、まじり第一着する事が価値的だ、あまり応援の大会を観戦する機会がなかった私も、試合が進むにつれ徐々にのめりこんでいく。「竹刀」という刀で対峙し、第一着のタイミングで相手をする緊張感、礼に始まり礼に終わる清々しさが実に気持ちいい。多くの日本人が忘れてしまった「武士道」というスピリットが受け継がれている事を知った。試合で大活躍した知人の息子の労をねぎらうために、行きつけの寿司屋で祝杯をあげる。「稽古の会が出て良かった」とうれしな顔で帰るおぼろげな青年の横で、大人達は北信濃の銘酒「漢流蔵囲い」を楽しむ。勝つ勝つ、負けて悔やまず。若者から男の生き様を学んだ夜である。

※お酒は二十歳になってから。